

千葉県青少年総合プラン平成25年度事業評価シート

計画番号 1

事業名	道徳教育推進プロジェクト		
担当課・室・班名	指導課教育課程室	問合せ先(電話番号)	4059

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援 健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上「多様な活動機会」の確保					
事業内容	○ 千葉県教育振興基本計画で「道徳性を高める実践的人間教育の推進」を計画実現の施策の方向の一つとして掲げ、幼児期から発達の段階に応じた道徳教育を推進する。					
当初予算額(千円)	24年度	28,300	25年度	30,300	26年度	32,000
決算額(千円)	24年度	25,405	25年度	20,699	26年度	
財源内訳	県単()	全額国費	県単()	全額国費	県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- ・年間1回の「道徳教育懇談会」を実施した。
- ・「郷土愛の涵養」や「勤労観・職業意識の高揚」に資する内容の高校生用映像教材を作成・配付した。
- ・すべての県立高等学校において「道徳」を学ぶ時間(年間35単位時間程度)が始まった。
- ・いじめを題材にした映像教材の指導例・ワークシート等の指導資料を収録した冊子を作成・配付した。
- ・平成25年度は、中学校5校、高等学校10校を研究校として指定し実践研究を実施した。
- ・中学校、高等学校等の道徳教育推進教師研修会を実施した。
- ・「心の教育推進キャンペーン」による授業公開の実施と実践資料集の作成・配付した。

(2) 事業の成果

- ・「道徳教育懇談会」において、今後の道徳教育や発達の段階に応じた授業の在り方などについて協議することができた。
- ・高等学校の一層の充実のために、「郷土愛の涵養」や「勤労観・職業意識の高揚」に資する内容の高校生用映像教材を作成・配付した。併せて、指導例・ワークシート等の指導資料を収録したCDを添付し、授業者がすぐに活用できるようにした。
- ・いじめを題材にした映像教材の指導例・ワークシート等の指導資料を収録した冊子を作成・配付した。
- ・平成25年度は、中学校5校、高等学校10校を研究校として、道徳の授業を公開し、実践研究を実施した。映像教材を活用した授業では、視聴した児童からは、「わかりやすい」「表情等から気持ちがわかる」等の感想や、保護者からは、「同じ映像を観ることで、家庭でもコミュニケーションが活発になった」等の報告が寄せられた。
- ・中学校、高等学校等の道徳教育推進教師研修会を実施した。県で作成した映像教材の活用説明や各校の実践事例報告があった。
- ・「心の教育推進キャンペーン」による幼稚園1校、小学校10校、中学校5校、高等学校3校、特別支援学校1校の計20校が公開授業を実施した。また、年間5回の会議を設け、各校の取組の紹介や、発達の段階に応じた授業の在り方について協議を行った。実践資料集「心豊かに」及び「心の啓発ポスター」を作成し、県内幼・小・中・高・特別支援学校に配付した。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- ・県で作成した道徳教材の積極的な活用
- ・道徳の授業の一層の充実のために、道徳教育推進教師を対象とした研修会を開催する。
- ・映像教材の作成等、引き続き、発達の段階に応じた、千葉県独自の教材作成を進める。
- ・道徳教育実施状況調査を行い、映像教材や読み物教材の活用状況を把握する。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成25年度事業評価シート

計画番号 2

事業名	学校人権教育の推進		
担当課・室・班名	指導課人権教育室	問合せ先(電話番号)	4066

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上, 「多様な活動機会」の確保					
事業内容	○各学校において, より効果的な人権教育の推進及び啓発を図る。					
当初予算額(千円)	24年度	1,445	25年度	1,296	26年度	1,018
決算額(千円)	24年度	1,020	25年度	986	26年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<p>○学校人権教育研究協議会 ・全体協議会1回, 地区別協議会6会場, 学校人権教育担当指導主事協議会6回, 高等学校協議会2回 推進校協議会5回 ○「学校人権教育指導資料集第34集」(3, 500部), CD-ROM(2, 000枚)を発行 ○人権教育研究指定校(県立高等学校1校: 船橋法典高等学校) ○「学校人権教育の推進に関する実態調査」の実施</p>
--

(2) 事業の成果

<p>○性同一性障害等, 喫緊の人権課題について取り上げて協議会を実施するとともに, 実態調査の結果をふまえた研究協議や校種別, 地区別の人権教育上の課題を討議することにより, 具体的に各学校で取り組むべき方策が明確にできた。 ○学校人権教育上有用な資料や情報の提供, 研修会での指導助言等により, 各学校における人権教育の重要性についての理解が深まり, 全体計画や年間指導計画の策定率, 教職員研修の実施率などが高まった。</p>

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<p>○研究協議会では, 学校における喫緊の人権課題(インターネットによる人権侵害や児童虐待, デートDV等)を取り上げ, 各学校が人権教育を推進する上で参考となる最新の情報を提供する。また, 児童生徒の人権感覚を高めるために, 参加体験型の研修形態を取り入れ, より実践的な研修内容になるよう努める。 ○幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における児童生徒の実態や発達段階に応じた人権教育推進のために, 研究協議会の研修内容の充実や, 校種別に内容を合わせた指導資料集の工夫・改善(校種別リーフレット等)を図る。</p>

4 委員意見

<p> </p>

千葉県青少年総合プラン平成25年度事業評価シート

計画番号 3

事業名	ちばっ子『学力向上』総合プラン		
担当課・室・班名	指導課学力向上室	問合せ先(電話番号)	4057

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安全の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上・「多様な活動機会」の確保					
事業内容	「授業力向上」の視点, 子どもたちの学びの視点, 読書活動充実と家庭学習環境づくりの視点, 体験学習による意欲向上の視点, 「PDCA」の視点の5つの視点に基づき, 児童・生徒の学力向上を図る事業を総合的に進める。					
当初予算額(千円)	24年度	39,300	25年度	128,800	26年度	160,790
決算額(千円)	24年度	27,375	25年度	122,954	26年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○					

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

県教育振興基本計画「みんなで取り組む『教育立県』ちばプラン」に基づいて、平成23年度から「ちばっ子『学力向上』総合プラン」を策定し、県下児童・生徒の学力向上を目指している。

本プランでは、20の事業を事業内容によって、「教師力トップ」チャレンジプラン（「授業力向上」の視点）、「子どもたちの夢・チャレンジ」サポートプラン（子どもたちの学びの視点）、確かな学びの礎（いしずえ）プラン（読書活動充実と家庭学習環境づくりの視点）、興味ワクワク「体験学習」推進プラン（体験学習による意欲向上の視点）、「学力向上」検証プラン（「PDCA」の視点）の5つのプランに分類・整理し、取組内容の明確化を図っている。

(2) 事業の成果

地域に根差した若手教員研修事業、「魅力ある授業づくりの達人」を活用した研究・研修会をのべ1,000回以上、11月の学力向上月間を中心に開催した「ちば『授業練磨の公開日』」に県下公立小中高等学校及び特別支援学校での授業公開など授業力向上に向けた取組を実施した。さらに国語、算数、理科において児童がつまずきやすい学習内容に対応した「学びの突破口ガイドー小学校中学年版ー」を作成し小学校に配付し、小学生の学力向上に向けた教材や資料の提供を行った。また、中学校では「ちばのやる気学習ガイド」5教科を活用するとともに、このガイドに対応した評価問題のWeb配信を行い、中学生の学力向上に向けた取組を実施した。読書好きな児童・生徒を育成するため、小・中・高等学校向けに「読書指導の実践事例集」を作成し、Web配信した。読書指導の充実を通して、人間性豊かな感性を育む取組を行った。「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業では、高校生が近隣の小・中学校へ出向き、学習支援を行ったり、課外活動の援助などを行い、学習意欲の向上が図られた。本年度新規事業として「千葉県学習サポーター派遣事業」を実施し、県内165校の小中学校（千葉市を除く）へ学習サポーターを派遣し、児童生徒の学習支援、家庭学習の充実が図られた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

「ちばっ子『学力向上』総合プラン」については、年度ごとに見直しを行い、学力向上に向けた事業を充実し、それぞれの事業で成果を上げており、全体的に進展が図られている。

各事業については、PDCAサイクルに基づいて事業担当者による個々の事業評価を実施し、それをもとに学力向上プロジェクトチーム会議により、各視点ごとに内部評価を行う。その内部評価をもとに年度末に「学力向上推進会議」で関係者評価を行い、本年度の事業成果を検証するとともに、次年度以降の事業の改善を図っていく。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成25年度事業 評価シート

計画番号 4

事業名	いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」の実施		
担当課・室・班名	体育課学校体育班	問合せ先(電話番号)	4108

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上, 「多様な活動機会」の確保					
事業内容	児童生徒を対象に、各学校で体育や業間、昼休み等の時間楽しく集団で協力し合いながら、長縄連続跳び、みんなでリレー、連続馬跳び等の運動に取り組み、その記録を競いあい、ランキングをホームページに掲載し運動に対する意欲を高めることで、運動の機会を増やし、体力向上を図る。					
当初予算額(千円)	24年度	20	25年度	20	26年度	20
決算額(千円)	24年度	20	25年度	17	26年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

参加学校 308校(6校減) 報告回数 25,401回(4,774回増) 県内公立学校の22.0%(0.5%減)の学校が取り組んだ。
--

(2) 事業の成果

参加学校数は若干減少したが、参加報告数は昨年度に比べ増加し、運動に対する意欲・機会が増え、体力向上につながったと考える。
--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

中学校の参加数31校(8.1%), 高等学校の参加数4校(3.1%)と参加校が少ない現状である。今後この事業がさらに生徒にとって魅力のあるものとなるよう種目と内容を見直し、検討していきたいと考える。

4 委員意見

(Blank area for committee comments)

千葉県青少年総合プラン平成25年度事業 評価シート

計画番号 5

事業名	「体力づくり推進モデル校認定事業」の実施		
担当課・室・班名	体育課学校体育班	問合せ先(電話番号)	4108

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上, 「多様な活動機会」の確保					
事業内容	児童生徒の体力向上を図ることを目指して、教科体育や学校行事、業間活動等で「特色ある体力づくり」を実践している学校を「体力づくり推進モデル校」として認定し、その特色ある取組や成果を各種研修会等で発表したり、ホームページに掲載するとともに、当該地域の学校体育拠点校として近隣校への波及、及び県内各学校における体力づくりの取組の普及・発展を図る。					
当初予算額(千円)	24年度	0	25年度	0	26年度	0
決算額(千円)	24年度	0	25年度	0	26年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

小・中学校体育科主任・保健体育科主任等研修会において実践発表するとともに、推進モデル校が近隣校に特色ある体力づくりの取組を紹介することができた。

(2) 事業の成果

教育事務所別の小・中学校体育科主任・保健体育科主任等研修会でモデル校が実践発表したり、近隣校に取組を紹介したことで、特色ある体力づくりの取組を県内の小・中学校に広め、体力向上に寄与することができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

この事業は平成19年度にスタートし、県内すべての市町村に1校以上指定し広めるという当初の目標を達成したので、25年度末で終了した。モデル校には継続して地域の体力向上の拠点校として活躍するよう依頼していく。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成25年度事業 評価シート

計画番号 6

事業名	千葉県競技力向上推進本部事業		
担当課・室・班名	体育課競技力向上班	問合せ先(電話番号)	4104

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援健康と安心の確保					
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上「多様な活動機会」の確保					
事業内容	計画的な選手の発掘・育成・強化や指導者の養成、スポーツ医・科学の活用などを行うとともに、国体で活躍した選手の能力を活用することや、千葉国体会場地市町等と連携した強化拠点作りなど、国体で培われた土壌を活かしながら、地域スポーツ振興に資する。					
当初予算額(千円)	24年度	200,000	25年度	200,000	26年度	200,000
決算額(千円)	24年度	199,980	25年度	199,511	26年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- 「東京国体」において、天皇杯7位(7年連続入賞)、皇后杯5位(5年連続入賞)という成績を収めた。
- 千葉国体以降も高い競技力を恒常的に維持するため、優れた能力を持つ選手の発掘や、指導者の養成などを行い、競技団体と連携した強化活動に取り組んだ。

(2) 事業の成果

- 競技力向上推進本部による長期的・計画的な事業の推進と関係団体とのスムーズな連携により、選手の育成、指導者の養成、組織の整備などが図られ、本県の競技力は向上している。
- 国体やその他の国際大会で活躍した選手や監督等を学校や地域のスポーツクラブに派遣し、スポーツの好循環を図ることを目的とした国体選手能力活用事業を展開した。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- この成果を一過性に終わらせることなく、しっかり引き継いで県民の活力・県勢の発展につなげていくため、国体で培われた土壌を活かし、さらに県民がスポーツに親しみ、健康で活力ある生活を送ることができるよう、競技力向上に向けた取組や地域と連携したスポーツ振興への取組を推進し、「スポーツ立県ちば」の実現に努めていく必要がある。
- 国民体育大会での継続的な入賞や、ジュニア選手の発掘・育成・強化など、競技力の恒常的な維持・発展を引き続き図る。また、国体選手能力活用事業等をさらに活発化し、国体における成果を県内に好循環させる。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成25年度事業 評価シート

計画番号 7

事業名	千葉の食文化まるごと体験事業		
担当課・室・班名	教育庁教育振興部文化財課学芸振興室	問合せ先(電話番号)	4127

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上「多様な活動機会」の確保					
事業内容	調理体験を通して、郷土の食文化の由来や重要性について理解を深める事業を県立関宿城博物館で実施。					
当初予算額(千円)	24年度	391	25年度	391	26年度	278
決算額(千円)	24年度	249	25年度	251	26年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

・郷土料理製作体験として、「小麦まんじゅうづくり」4回(101名)と「こんにやくづくり」1回(30名)
 ・魚介類の採集捕獲体験として、「投網漁と川魚料理」1回(15名)
 ・郷土料理技術保持者育成講習会として、「高菜漬け」4回(参加31名)

(2) 事業の成果

調理体験を通して、郷土の食文化の由来や重要性について、参加者に理解を深めていただくことができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

いずれの事業も体験者のほとんどが中高齢者であり、必ずしも青少年の健全育成にはつながっていない。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成25年度事業 評価シート

計画番号 8

事業名	千葉フィールドミュージアム事業		
担当課・室・班名	教育庁教育振興部文化財課学芸振興室	問合せ先(電話番号)	4127

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上「多様な活動機会」の確保					
事業内容	山・川・海といったフィールド(現地)を「博物館」ととらえ、学びの舞台とするもので、中央博物館本館(山)、中央博物館大利根分館(川)、中央博物館分館海の博物館(海)、関宿城博物館(川)で実施する。					
当初予算額(千円)	24年度	2,003	25年度	6,490	26年度	6378
決算額(千円)	24年度	1,248	25年度	6,379	26年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> ・山のフィールドミュージアムとして「教室博物館」毎週1回実施、「観察会等」19回<中止1回参加467名> ・川のフィールドミュージアム(大利根分館)として「いきもの調査隊」3回<参加0名>、「いしぶみ調査隊」3回<参加1名> ・川のフィールドミュージアム(関宿城博物館)として「関宿城下を歩こう」5回<参加97名>、「川の歴史散歩」1回<参加19名> ・海のフィールドミュージアムとして、「観察会等」53回<参加1,139名>、「野外実習授業」22回<参加963名>
--

(2)事業の成果

<p>参加者に、実際に現地を観、体験していただくことにより、千葉県の多様な自然と歴史を実感していただくことができた。</p>
--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<p>山あるいは海のフィールドミュージアムについては、中高齢者層の参加者も少なくないが、小学生親子などの参加者も多く、基本方策のうち、「多様な活動機会の確保」という目的は達せられているものと思われる。ただし、安全確保のため1回あたりの参加者数を絞らざるを得ず、多くの方々に対して活動機会を確保することは困難である。また、川のフィールドミュージアムについては、いずれも参加者が中高齢者層で占められているため、青少年健全育成には必ずしもつながっていない。</p>

4 委員意見

--

千葉県青少年総合プラン平成25年度事業評価シート

計画番号 9

事業名	放課後子供教室推進事業の子どもの居場所づくり		
担当課・室・班名	生涯学習課 学校・家庭・地域連携室	問合せ先(電話番号)	4167

1 事業の概要

柱	I 子供・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上「多様な活動機会」の確保					
事業内容	すべての子供を対象として、安全・安心な子供の活動拠点(居場所)を設け、地域住民の参画を得て、子供たちの勉強やスポーツ、文化活動等の取組を推進します。					
当初予算額(千円)	24年度	64,900	25年度	61,900	26年度	73,070
決算額(千円)	24年度	61,683	25年度	59,514	26年度	
財源内訳	県単(○)	県費: 30,885 国補助金: 30,798	県単(○)	県費: 29,765 国補助金: 29,749	県単(○)	県費: 36,557 国補助金: 36,513

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- ・実施市町は、25市町・152教室である。
- ・指導スタッフ等研修会(1回開催、83人参加)を実施した。
- ・学校支援コーディネーター研修講座(年3期開催 総計353人参加)を実施した。
- ・事業啓発リーフレットを作成し、配布した。

(2) 事業の成果

- ・指導スタッフ等研修会では、「他の教室の活動の話が聞くことができ参考になった」「今日の研修内容を今後の活動に取り入れようと思った」「同じ分野の人との意見交換は活動への励みとなった」などの感想から、講演の内容及び分科会討議が参加者の今後の活動に効果的であった。
- ・学校支援コーディネーター研修講座では、1期は知識・技能の向上を、2期は取組の実際を見学して学ぶことを、3期は講演及び実践発表を通して今後の実践を豊かにすることを目的に実施した。参加者の感想から、3回の研修のすべてで意見交換の場を設け自分たちの取組と他地域の取組と対比することは、今後の活動の活性化に繋がっていたようであった。また、3期の講演では参加者のニーズが高い「子どもへの対応の仕方」をテーマに実施したことで、「今後の活動に活かしたい」「考え方を改めたい」など感想が多数あり、大変好評であった。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- ・放課後子供教室は、着実に教室数(6教室増)、実施市町村数(2町増)が増加し子どもたちの安全・安心な居場所づくりが進んできているが、予算の確保が難しいのが現状である。
- ・実施しているどの市町村も、指導スタッフの確保が課題となっている。今後も学校と地域の連携を進めるコーディネーターや指導者に対する研修会を通して、指導者の資質向上や発掘を図る必要がある。
- ・放課後子供教室としての活動が定着してきている地域は、新しい活動内容を取り入れることが課題となっている。研修会の意見交換の場を活用し、共有できる人材、教材、プログラムを紹介し合うことで活動のマンネリ化の解消を図っていく。

4 委員意見

事業名	週末ふれあい推進事業		
担当課・室・班名	生涯学習課・社会教育振興室・社会教育施設班	問合せ先(電話番号)	4070

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上 「多様な活動機会」の確保					
事業内容	青少年教育施設の立地条件や機能を生かし、高齢者・親・子のふれあい体験事業を実施し、今日地域社会で欠けている異年齢集団との交流の充実を図り、人と協調する態度や、思いやりの気持ちを育むとともに、併せて地域の指導者を養成する。					
当初予算額(千円)	24年度	2,900	25年度	2,900	26年度	2,900
決算額(千円)	24年度	2,900	25年度	2,900	26年度	
財源内訳	県単(○)	施設管理運営費内で実施(@580千円×5)	県単(○)	施設管理運営費内で実施(@580千円×5)	県単(○)	施設管理運営費内で実施(@580千円×5)
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<p>平成25年度の実施状況</p> <p>(ア)実施施設(5施設) 手賀の丘少年自然の家、水郷小見川少年自然の家、君津亀山少年自然の家、東金青年の家、鴨川青年の家</p> <p>(イ)実績 5施設で63事業を実施 12,477人参加(前年比 2,125人減)</p> <p>(ウ)主な実施プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然観察: あいたいね! ホタルくん・セミくんに、森っこレンジャー ・星座観察: スターウォッチング、みんなおいでよ! プラネタリウム ・交流活動: 青年の家まつり、少年自然の家まつり ・ものづくり体験: わいわい工作教室、ミニ門松作り、そば打ち体験 ・その他: やさしいカヌー、親子でカッター&シーカヤック
--

(2) 事業の成果

<p>実施日の天候の関係で参加者が昨年度より減ったものの、参加者から次のような声が聞かれ、事業の目的を達成することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験を通じて、親子や兄弟姉妹が互いにコミュニケーションを深めた。 ・活動を通じて参加者同士の交流が深まった。 ・地域の指導者やボランティアの協力を得て実施したことで、地域とのかかわりを持つことができた。 ・各施設とも特色を生かしたプログラムの工夫を行い、内容の充実を図ることができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> ・各施設とも実施事業の評価をもとに、時代のニーズや課題に対応した事業の展開に努めているところである。 ・地域との連携を深め、高齢者をはじめとした地域人材の有効活用を図るとともに、地域指導者育成等、地域への貢献をより深める。 ・事業の広報について見直し、学校だけでなく地域への案内を工夫し行うことで、親世代や地域の指導者層の参加を増やし、県内における体験活動の推進につなげる。

4 委員意見

Empty box for committee comments

千葉県青少年総合プラン平成25年度事業評価シート

計画番号 11

事業名	青少年教育施設の運営		
担当課・室・班名	生涯学習課 社会教育振興室	問合せ先(電話番号)	4070

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上 「多様な活動機会」の確保					
事業内容	少年自然の家、青年の家において自然体験や生活体験などの多様な体験活動の機会を提供し、団体生活を通じて青少年の育成を図ります。					
当初予算額(千円)	24年度	446,000	25年度	447,025	26年度	472,715
決算額(千円)	24年度	462,870	25年度	460,081	26年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

平成20年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	256,917人	団体数合計	2,728団体
平成21年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	271,333人	団体数合計	2,900団体
平成22年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	276,545人	団体数合計	2,873団体
平成23年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	312,759人	団体数合計	2,682団体
平成24年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	272,009人	団体数合計	3,405団体
平成25年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	267,950人	団体数合計	3,554団体

(2) 事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> 平成20年度から県立青少年教育施設全て(5施設)に指定管理制度を導入し、運営経費を削減しながら、民間のノウハウを生かした主催事業やプログラムの情報提供を行っている。 5所相互の交流や施設職員研修等を通して、施設相互の情報交換が図られている。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> 利用団体数は微増しているものの、少子化の影響とみられる利用団体個々の構成員減少により、利用者数が伸び悩んでいることから、新規団体の確保につながる新規プログラムの作成や広報の拡大などの策を講じている。 また、学校等への出前講座や指導者養成事業の実施により、指導者に対する青少年教育施設のプログラムや利用の仕方等について、周知を図り、長期的な利用者増につなげる。 各施設に対し、職員の外部研修会への積極的な派遣や資格取得等、指導等のスキルアップを働きかけることにより、青少年教育施設としてのクオリティをより向上させ、利用者サービスの向上を図る。
--

4 委員意見

--

千葉県青少年総合プラン平成25年度事業評価シート

計画番号 12

事業名	子どもの読書活動推進事業		
担当課・室・班名	生涯学習課・社会教育振興室・社会教育班	問合せ先(電話番号)	4072

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上 「多様な活動機会」の確保					
事業内容	平成22年3月に策定された「千葉県子どもの読書活動推進計画(第二次)」に基づき、乳幼児期からの読書活動を推進し、子どもが自主的に読書に親しむことができる環境の整備を進めるため、発達段階に応じた保護者向けリーフレットの作成・配付及び研修会・講座等を実施する。					
当初予算額(千円)	24年度	1,000	25年度	1,000	26年度	886
決算額(千円)	24年度	764	25年度	704	26年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書活動啓発リーフレット「子どもに読ませたい本100選」の乳幼児向け及び小学生向けをそれぞれ3歳児及び小学校1年生の保護者に配布(各56,000部) 千葉県子どもの読書活動啓発の集い 5月11日 千葉県文化会館で開催 講演, 事例発表 参加者232名 公立図書館と学校の連携を図るための研修会 8月20日 千葉県立千葉女子高等学校で開催 実践発表, 講評, 交流会 参加者185名 乳幼児への絵本の読み聞かせボランティア養成講座 11月16日 長南町保健センターで開催 講義, 事例発表・実演, 情報交換会 参加者56名

(2) 事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書活動啓発リーフレットを配布後、保護者の抽出アンケートを実施した。「配布後の変化」「有効性」に一定の成果が得られており、97%が活用しているという回答があった。公立図書館と学校の連携を図るための研修会参加者の89.4%が配付の継続を望んでいる。また、配付を依頼している市町村教育委員会から増刷を望む声が多数あることから、家庭での読書活動の推進が図れた。 千葉県子どもの読書活動啓発の集いでは、参加者の97.5%が「満足した」と回答しており、子どもの読書活動の意義や重要性について考える機会となった。 公立図書館と学校の連携を図るための研修会では、参加者の99.4%が「今後の参考になった」と回答しており、図書館や学校における読書活動の推進が期待できる。 乳幼児への絵本の読み聞かせボランティア養成講座では、ボランティアでない参加者の45%が「今後読み聞かせボランティアとして活動したい」と回答している。また、実際にブックスタート事業を実施する市町村の割合が増加した。(平成25年度88.9% 24年度より4.7ポイント増加)
--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書活動啓発リーフレットは、今後も継続して作成・配付していくことにより認知率を高めていく。また、アンケート調査の意見を参考に、ルビを振ることで子どもの読書の意欲に直接働きかけていく。引き続き活用状況を把握し、送付時に活用例を紹介することや内容の見直しを含め効果的な事業の推進を図る。 研修会・講座等においては、目的の達成及び実績を高めるため、プログラム及び事前の広報活動を充実させる。また、参加者の情報交換や交流を深める時間を設定し、ネットワークの構築を図る。 ブックスタート事業を実施する市町村の割合は、「千葉県子どもの読書活動推進計画(第二次)」の数値目標を達成しており、全市町村の実施を目指している。しかし、「子どもの読書活動推進計画」を策定している市町村の割合は、数値目標に達していない。今後は、子どもの読書活動推進事業のより一層の充実と市町村への支援を強化する。
--

4 委員意見

--

事業名	通学合宿推進事業		
担当課・室・班名	生涯学習課・社会教育振興室・社会教育施設班	問合せ先(電話番号)	4070

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上 「多様な活動機会」の確保					
事業内容	異年齢の子どもたちが、地域の施設で一定期間寝食を共にしながら学校へ通うなかで、食事の準備や身支度等の日常生活の基本に関することを、子どもたち自身で行うことで、現在の子どもたちに不足している生活体験や、交流体験を行うことができる通学合宿を県内各地域で実施されるように推進する。					
当初予算額(千円)	24年度	—	25年度	—	26年度	—
決算額(千円)	24年度	—	25年度	—	26年度	—
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

平成25年度の実施状況
・市町村:17市町村35事業(前年比4市町減)
・県立青少年教育施設:3所8事業(内3事業は市町村と共催)
事業総計:40事業(参加児童生徒数 1,092人)

(2)事業の成果

<p>○参加者や保護者、指導者から次のような声が聞かれ、事業の目的を達成することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非日常的な体験を同じ学校や地域等、日常に近い環境で行うため、生活力が向上した。 ・子どもと年齢の近い高校生や大学生、親や教師以外の大人等との異世代交流が図られた。 ・保護者が親子の絆や子育てについて考えるきっかけになった。 ・子どもたちへの支援をとおして、高校生や大学生が人間的に成長できた。 ・地域で子どもたちを育てようとする意識が向上した。 <p>○全体としては4事業の減少となったが、1市においてさらに1事業を追加するなど、事業の効果が認められており、26年度も1市において新規に事業の実施が計画されている。</p>
--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<p>・事業効果は認められているものの、地域における実態として宿泊施設がなかったり、運営に携わる事業スタッフが確保できないなどの課題が挙げられる。そこで、防災キャンプでの実践例として体育館の利用や、地域住民をボランティアとして活用する例など、先行事例を幅広く紹介していきたい。</p> <p>・公共の施設だけでなく、高校の合宿所を利用した事例など、特徴的な実践とともに昨年の実施事例を県ホームページに掲載して情報提供することで、広く事業の普及に努める。</p>
--

4 委員意見

Empty box for committee comments

千葉県青少年総合プラン平成25年度事業評価シート

計画番号 14

事業名	「ちば・ふるさとの学び」活用推進事業		
担当課・室・班名	教育政策課教育立県推進室	問合せ先(電話番号)	4176

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	・学校等が、より活用しやすいテキストとなるよう、適宜、統計資料の時点修正を行う。					
当初予算額(千円)	24年度	0	25年度	0	26年度	0
決算額(千円)	24年度	0	25年度	0	26年度	0
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- ・テキストの一部統計資料を新しいデータに変更し、掲載しているウェブページを更新した。
- ・教員研修でウェブページの周知を図った。
- ・ウェブページへアクセスしやすくするため、総合教育センターのウェブページにリンクを設定した。

(2) 事業の成果

- ・一部統計資料の時点修正をし、学校等が活用しやすくなるよう努めた。

※参考 テキストのデータ等へのアクセス総数は、平成24年度は58,368件、平成25年度は77,952件となっている。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- ・適宜、テキストの統計資料等を時点修正する。
- ・テキストのデータが、学校等でより活用しやすくなるようウェブページの更新をする。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成25年度事業 評価シート

計画番号 15

事業名	学童期からの生活習慣病予防事業		
担当課・室・班名	健康づくり支援課 食と歯・口腔健康班	問合せ先(電話番号)	2667

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	子どもの頃から適切な食習慣づくりを推進するほか、ライフステージに応じた適切な食生活等について普及啓発を行うことにより、生活習慣病を予防し、生涯を通じた健康づくりを図る。					
当初予算額(千円)	24年度	2,154	25年度	1,053	26年度	500
決算額(千円)	24年度	1,689	25年度	1,022	26年度	
財源内訳	県単(○)	1/2 国庫	県単(○)	1/2 国庫	県単(○)	1/2 国庫

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- ①子どもが野菜を多く摂取でき、忙しく働く親世代が短時間で調理できるレシピを応募してもらい「カンタン!! 野菜たっぷり!!ヘルシー料理コンテスト」を企業等と連携して開催した。(応募総数107件)
- ②「しっかり運動、早ね早おき朝ごはん」に関するイベントを実施(4回)
- ③食育指導者研修会を各健康福祉センター毎に開催し、食育指導者に対し、地域の健康課題を踏まえた取組み事例の発表等職域間での連携を図り、地域全体で食育を推進した。(16回)
- ④外食における栄養成分表示やヘルシーメニューの普及等を推進した。
(平成25年度末現在 健康ちば協力店登録店舗数:1,037店舗)

(2) 事業の成果

県民の野菜摂取量が全国平均を下回っていることから、「カンタン!!野菜たっぷり!!ヘルシー料理コンテスト」や「しっかり運動、早ね早おき朝ごはん～野菜を350g測ってみよう～」等のイベントを実施し、野菜を摂取することの重要性を普及啓発したことにより、野菜摂取量の増加と正しい生活習慣の実践を働きかけることができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

学童期の子どもを中心に子どもを取り巻く大人(保護者等)に対して普及啓発を推進する等、ライフステージに応じた生活習慣病の予防を推進する。25年度開催のヘルシー料理コンテスト入賞作品を掲載したレシピ集を作成し、ボランティア団体等による食生活改善活動の中での活用や、県内飲食店等での情報発信を行い、食を通じた環境の整備を促進させる。

4 委員意見

忙しいお父さん・
お母さんを応援します!!!

カンタン!! 野菜たっぷり!! ヘルシー料理コンテスト



千葉県マスコットキャラクターチーパくん



手軽に作れる千葉県産の野菜を使った ヘルシー料理のアイデアレシピ募集

応募方法



応募締切
平成25年12月2日月
消印有効

応募資格 千葉県に在住、在勤、在学している方で、応募のレシピが **A B** を両方とも満たしていること。

A 子育て中の忙しい保護者でも簡単に作れる、野菜をたくさん使ったヘルシー料理のアイデアレシピを応募してください。

●今回募集する「料理」とは、おかず・お惣菜のことを指します。

主食となりえる麺類・丼・ハンバーガー・サンドウィッチなどは含みません。

- B**
- ①野菜を調理前の状態(生)で、100g以上使用していること。(別表1参照)
 - ②千葉県産の野菜を2種類以上使用していること。野菜には、いも類は含みません。(別表2参照)
 - ③健康に配慮(減塩、油ひかえめ等)していること。

別表1 今回のコンテストでは、野菜(生)のみで片手たっぷりの量にしてください

別表2 この表の中から、季節を問わず2種類以上、パー分の量の野菜(生)を使用してください。



副菜は
「パー」

副菜の1食分の量は
パーにたっぷりをめざして!



片手の上に
になるくらい

副菜になる食品は
野菜・海藻・きのこ・こんにやく



春

かぶ、キャベツ、トマト、そらまめ、
だいこん、たけのこ、さやいんげん



夏

にんじん、えだまめ、とうもろこし、
なす、かぼちゃ、ししとう、ピーマン



秋

ほうれんそう、チンゲンサイ、みつば、
ごぼう、こまつな、かぶ、レンコン、
トマト、キャベツ



冬

にんじん、キャベツ、しゅんぎく、ねぎ、
かぶ、だいこん、ニラ、トマト、なばな、
こまつな、ほうれんそう、はくさい



郵送先

千葉県のホームページから

サイト内検索 検索

で検索！

応募用紙を千葉県ホームページよりダウンロードの上、必要事項を記載し、盛付け写真を貼付け、下記へ郵送してください。



【郵送先】

〒260-0006

千葉県千葉市中央区道場北 1-9-3-108

食育ネット株式会社内

「カンタン!! 野菜たっぷり!! ヘルシー料理コンテスト」係

このサイトも見てね

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kenzu/boshuu/2013/contest.html>

選考方法

一次審査（書類選考）、二次審査（審査員による試食審査等）を行います。一次審査通過者には個別にお知らせします。なお、二次審査が最終審査となります。優秀作品については、表彰させていただきます。

記入例

【応募用紙1 (記載例)】

「カンタン!! 野菜たっぷり!! ヘルシー料理コンテスト」

フリガナ	チバ ハナコ	男	年齢	
応募者ご氏名	千葉 華子	女	20 歳	
ご住所	〒260-8667 千葉県中央区市場町1-1	TEL	XXX-XXX-XXXX	FAX
		メール	abc@pref.chiba.lg.jp	

【料理のなまえ・タイトル】	○○○
【材料 (1食分)】*野菜類の野菜ごまをすべてごまき、	【作り方】*お作り方を詳しく記入してください。用紙が不足する場合は、別紙による提出も可能です。
人参 ●g 大根 ▲g ...	1 人参と大根の皮をむき、短冊に切る。 2 フライパンに植物油をひく。
植物油 ■g 酢 ◆g 砂糖 □g しょう油 △g ...	
【1食当たりの野菜の使用量】	【1食当たりの食材料費】
150 (g)	200 (円)

ユニークなタイトル
待ってます!!

1食(1人)分の
材料を書いてネ

千葉県産の野菜に
◎をつけてネ

材料の記入もれに
気をつけてネ
(例)みそ炒めの
材料にみそが
書いてない...など

使用した野菜の
合計の使用量を
書いてネ

なるべく詳しく
書いてネ

【応募用紙2 (記載例)】

氏名	千葉 華子	料理のなまえ・タイトル	○○○
【アピールポイント】	<input type="checkbox"/> ▲ ○ ◆		
【料理に関するエピソード】	<input type="checkbox"/> ▲ ○ ◆		
【写真添付】*添付する写真(2Lサイズ(127mm×180mm)以下)の裏面には、氏名を必ず記載すること。	レシピの写真を 貼付けてネ イラストでもいいよ		

アピールポイントや
料理に関する
エピソード・思い出を
書いてネ



その他

応募作品は返却しません。また、受賞作品の著作権は、千葉県に帰属するものとします。過去の料理コンテスト入賞作品は応募できません。

問い合わせ先 (委託先)

食育ネット株式会社
TEL: 043-224-6322

主催：千葉県



千葉県青少年総合プラン平成25年度事業 評価シート

計画番号 16

事業名	ちば食育活動促進事業		
担当課・室・班名	安全農業推進課・食の安心推進室	問合せ先(電話番号)	3092

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援								
基本目標	1 自己形成支援 健康と安心の確保								
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上 「多様な活動機会」の確保								
事業内容	県民が一人ひとりが自ら食育を実践することを目指した第2次千葉県食育推進計画を策定するとともに、市町村、関係団体、企業、ボランティア等と連携・協働した食育推進運動の展開を図る。								
当初予算額(千円)	24年度	8,000	25年度	5,811	26年度	5,271			
決算額(千円)	24年度	3,853	25年度	2,438	26年度				
財源内訳	県単()	一般財源	6,440	県単()	一般財源	4,551	県単()	一般財源	4,181
		国庫	1,560		国庫	1,260		国庫	1,090

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

- 県食育推進県民協議会の開催(1回)
- 地域食育推進会議の開催(県内10地域11回)
- 食育ボランティア・サポート企業情報交換会の開催(1回)
- 地域食育活動交換会の開催(県内10地域10回)
- 食育応援企業連絡会の開催(1回)
- 学校参加型食育体験プログラムの配布(小・中学校、高等学校などへ1,600枚配布)
- 「ちば食育サポート企業(第6期)」の募集
- 食育体験プラン事業の実施(2地域)
- 食育月間(6月・11月)における広報・啓発
- 食育啓発リーフレットの作成・配布(2万部)

(2)事業の成果

- 県食育推進県民協議会及び地域食育推進会議において食育関係者間の意見交換、連携・協働を図りました。
- 食育ボランティア・サポート企業情報交換会を開催し、優良事例発表・パネルディスカッションを開催した結果、180名の参加があり、活発な情報交換と連携強化が図れました。アンケートの結果、若い世代の食育活動の取組事例に啓発されたとの声が多く聞かれました。
- ちば食育サポート企業が学校で出前授業などを行う学校参加型食育体験プログラムを実施するなど、企業と連携した取組を推進しました。アンケートの結果、プログラムを知っていると回答した学校が66%、実際に活用している学校が31%、活用したいと考えている学校が81%と、高い関心が示されました。
- ちば食育サポート企業を募集し、143社を登録しました。
- 大学生が収穫や流通・加工等について産地で体験し、食育への理解を深めるとともに、生産者の方などとワークショップを通じて地域活性化の方策を検討する食育体験プログラムを実施したところ、若者の斬新なアイデアに基づく企画をまとめることができました。
- 6月と11月の食育月間に県内各地で行われる食育イベントを通じて広報・啓発を行いました。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

食育について県民への周知は図られてきているところですが、それを行動・実践に十分結びつけていくことが課題となっています。
平成25年1月に策定した「第2次千葉県食育推進計画(キャッチフレーズ:ちばの恵みで まんてん笑顔)」に基づき、ちば食育ボランティアやちば食育サポート企業を始め、官民が連携した取組を進め、県民の皆さんが食育について「知っている」から「できる」そして「している」にステップアップしていけるよう一人ひとりが実践する幅広い県民運動として展開していきます。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成25年度事業評価シート

計画番号 17

事業名	いきいきちばっ子食育推進事業		
担当課・室・班名	学校安全保健課 給食班	問合せ先(電話番号)	4095

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	「ちばの食」を通じて子どもたちの健やかな体を育むとともに、規則正しい生活習慣を身につけさせるため、食育ノートの活用や体験型の食育活動を行うなど、学校における食育を推進する。					
当初予算額(千円)	24年度	2,840	25年度	2,530	26年度	2,220
決算額(千円)	24年度	1,028	25年度	1,609	26年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

・県内5地区において、公立小中学校の管理職・給食主任・栄養教諭等及び共同調理場長・行政担当者等を参加対象者とした地区別研究協議会を開催し、各地区における食に関する指導の実践発表等を行った。
 ・各教育事務所ごとに栄養教諭を中心とした4名の食育指導推進委員を置き、その所属校を食育指導推進拠点校として、25年度は各地区2校が授業公開等を通して食育指導の充実を図った。
 ・県立成田西陵高等学校及び県立鶴舞桜が丘高等学校を活動支援校に指定し、近隣小中学校と連携した食育活動を実践した。

(2) 事業の成果

・各地区の栄養教諭等が中心となって食に関する指導の研究協議会を運営することで、地域の実態に即した実践発表を行うことができた。
 ・農業・水産系高等学校の圃場や施設の利用及び職員の支援を受け、体験活動を取り入れた食育活動を行うことで、児童生徒の食に関する意識を高めることができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・今後、より保護者や地域との連携を意識した施策を展開することで、より一層の食育指導の浸透を図る。
 ・地域や各学校の実態に応じた食育指導推進ができるよう、地域における食育指導推進事業及び高等学校と連携した食育活動支援事業のさらなる充実を図る。
 ・平成26年度の、高等学校と連携した食育活動支援事業については、大網高等学校及び君津青葉高等学校を支援校とした事業を展開する。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成25年度事業評価シート

計画番号 18

事業名	豊かな人間関係づくり推進事業		
担当課・室・班名	指導課教育課程室・教育政策課教育立県推進室	問合せ先(電話番号)指導課(4059)・教育政策課(417)	

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	・児童生徒に、思いやりの心を育て、コミュニケーション能力の育成を目指した「豊かな人間関係づくり実践プログラム」が県内小・中学校において、積極的に展開されるよう、活用推進に努める。					
当初予算額(千円)	24年度	0	25年度	0	26年度	0
決算額(千円)	24年度	0	25年度	0	26年度	0
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

・改訂した実践プログラムの更なる効果的な活用を推進するため、県内5地域より小・中学校10校をモニター校として指定した。
 ・初任者研修や希望研修で、プログラムの活用についての講座を実施し、教員の授業力の向上に取り組んだ。
 ・本プログラムの更なる普及促進及び教育課程への位置づけ等について、各市町村教育委員会を通して小中学校へ通知を行った。また、学校訪問等で、活用推進の指導・助言を行った。
 ・プログラムの実施状況調査を実施(26年度始めに集計)

(2) 事業の成果

・改訂した実践プログラムの更なる効果的な活用を推進するため、県内5地域より小・中学校10校をモニター校として指定し推進を図った。
 ・初任者研修会や希望研修におけるプログラム活用法についての講座の実施により、教職員にプログラムの活用についての意識付けができた。平成25年度の実施状況調査では中学校で実施率が上昇したが、小学校での実施率がやや下降した。
 ・指導主事会議等において、本プログラムの教育課程への位置づけについて統一を図ることができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・プログラムの更なる活用推進に向け、平成26年度は、初任者研修、教員経験2・3年目の教員を対象とした「授業力アップ研修」を実施します。また、昨年に引き続き平成26年度も、県内の小学校5校・中学校5校をモニター校に指定し、改定版プログラムの効果的な活用方法の検討や、次期改定を見据えた課題整理を進めていきます。
 ・プログラムの更なる活用推進に向け、実施状況調査により学校の問題点を把握し、学校訪問等での活用推進の指導・助言に役立てます。

4 委員意見

千葉県青少年総合プラン平成25年度事業評価シート

計画番号 19

事業名	男女共同参画センター「男女共同参画講座等」の開催		
担当課・室・班名	男女共同参画課 企画調整班	問合せ先(電話番号)	2372

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	男女共同参画センターにおいて、男女共同参画への理解を深めるため、県民を対象に各種講座等を開催する。					
当初予算額(千円)	24年度	1,085	25年度	1,085	26年度	1,036
決算額(千円)	24年度	912	25年度	1,005	26年度	
財源内訳	県単(○)	一般財源	県単(○)	一般財源	県単(○)	一般財源
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- 男女共同参画基礎講座(1講座)「男女共同参画シンポジウム」
- 自己開発・人材育成セミナー(2講座)「女性リーダー養成講座」「ミーティング上手になるコミュニケーション講座」
- 専門講座(2講座)「社会福祉協議会との共催セミナー」「千葉大学との共催セミナー」

(2) 事業の成果

女性だけでなく、男性、若年層にも参加しやすい講座を開設し、あらゆる人にとっての男女共同参画を意識した意識啓発をすることができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

他の事業との差別化を図るため、より専門的な講座を開設したことで、男性、若年層の参加が増すなど、定員を上回る参加者を集める講座があった。しかし、まだ、男性の参加者が少ないので、テーマ、開催日等を工夫し参加者を増やしていく努力が必要である。

4 委員意見